

香港の若者のサブカルチャー／ポップカルチャー現象—その歴史、特色、位置付け 合田 美穂（中国）

香港はアジアにおける流行文化の発信地、中継地、消費地といえる場所です。グローバル文化の拡大および加速にともなって、香港の流行文化は、2つの大きな発展の時期を経験してきました。第1段階は、戦後から1970年代前半にかけてのアメリカ化の時期です。当時は、アメリカの映画、音楽、テレビ番組、飲食およびファッションは、香港市場において独壇場の状態でした。当時は香港の流行文化もアメリカを模倣し、男女ともにアメリカの流行歌や、アメリカ風のアニメを愛好していました。

第2段階は、1970年代後半から現在までの文化の多元化の時期です。アメリカの映画は優勢を保っていますが、アメリカの流行文化の影響力は、従来ほどではなくなり、さまざまな文化の勢力が時代の波に乗って出現し、特に、香港文化と日本文化が影響力を持つようになりました。香港映画をはじめとした広東語の流行文化は、1970年代から1980年代にかけて出現し、香港市場の主流を占めるようになりましたが、近年、衰退しています。日本流行文化は1980年代以降、香港で一世を風靡し、1980年代前半および1990年代後半に、それぞれ2回、ブームを巻き起こしました。1回目のブームでは、アニメ、電子ゲーム、音楽が中心で、2回目のブームでは、ドラマおよびJポップが中心でした。この時期は、現地流行文化と日本流行文化は、男女差なく好まれていました。

香港は、流行文化の重要な発信地となっています。香港の流行文化は、中国および台湾で大きな影響力をもっており、更に日本、韓国および東南アジア各地にまで影響力を伸ばしています。広東語の流行文化の衰退および中国返還後の新しい情勢によって、香港の流行文化は、中国市場への参入を目指すようになり、映画俳優は香港ではなく中国で映画を撮影し、歌手も広東語ではなく北京語で歌うようになって中国市場を意識しています。

香港は、世界各地の流行文化の中継地でも、また消費地でもあります。アメリカ、日本、韓国、中国大陸、台湾の文化商品は香港市場に溢れており、香港の現地流行文化に常に衝撃を与えています。各地の文化を見れば、アメリカは映画、日本はアニメ、電子ゲームおよびファッション、韓国はテレビドラマおよびネットゲーム、台湾はアイドルドラマ、中国大陸は歴史劇、タイはゴーストストーリーというように、それぞれ強みを持っています。近年、流行文化に対する好みの傾向にも男女差が見られるようになりました。テレビドラマの場合、日本の作品と台湾の作品は若い女性に好まれ、韓国の作品と香港の作品は中年女性に好まれ、アメリカのドラマを好む人の多くは中産階級の中年男性となっています。無限に広がる各国流行文化の選択肢を目の前にし、今後、好みも多様化し「今日は日流、明日は韓流、次は台流」という人も増加していくと思われそうですし、ジェンダー差も変容していくと考えられます。